

答「小学生や中学生、高校生向けの作品がデビューのキッカケになった作家」でした。

### 児童文学の世界から

伊藤たかみ（いとうたかみ）

2000年『ミカ!』小学館児童出版文化賞受賞

角田光代（かくたみつよ）

1999年『キッドナップ・ツアー』産経児童出版文化賞および路傍の石文学賞を受賞

佐藤多佳子（さとうたかこ）

1989年『サマータイム』月刊MOE 童話大賞を受賞

津原泰水（つはらやすみ）

津原やすみのペンネームで少女小説家デビュー

### ライトノベルの世界から

新井素子（あらいもとこ）

ライトノベル作家の草分け的存在

有川浩（ありかわひろ）

2003年『塩の街』電撃ゲーム小説大賞を受賞

橋本紡（はしもとつむぐ）

1997年『猫目狩り』電撃ゲーム小説大賞金賞を受賞

森見登美彦（もりみとみひこ）

2003年『太陽の塔』日本ファンタジーノベル大賞を受賞

米澤穂信（よねざわほのぶ）

2001年『氷菓』角川学園小説大賞奨励賞を受賞

こどものためのとしょかんだより

逗子市立図書館 2016年（平成28年） 1月6日発行 vol.10

## マーメイドくらぶ

逗子市逗子 4-2-10 046(871)5998（電話案内サービス）

YA版



### 『可能性が広がる冬』



今回のマーメイドくらぶは、この冬におすすめしたい9冊の本を紹介します。今回登場する本の中から、ぜひこの機会にお気に入りの作家を見つけて、読書のハイシーズンを楽しんでくださいね！今までにはなかった、新たな出会いの冬になるかもしれません。

問題 9人の作家の共通点は何でしょう？



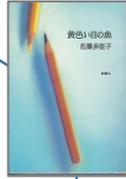
### 『マーメイドくらぶ』って…？

『マーメイドくらぶ』は、子ども版とYA（ヤングアダルト）版を3か月毎に交互に発行しています。テーマごとの本の紹介や図書館からのお知らせなど、図書館と本に関する情報をできるだけたくさんお届けします。



『黄色い目の魚』F サ  
さとうたかこ  
 佐藤多佳子著 新潮社

「自分の限界を見るのが怖い。」「限界が見えるようなこと、何もできない。」と悩む16歳の悟とみのり。周囲の人と関わり合いながら二人で刺激し合い、そして成長していく姿に、心ひかれる一冊。



『グリーン・レクイエム』  
あらいもとこ  
 YA 91.3 ア 新井素子著  
 イナアキコ絵 日本標準

幼いころ、山道に迷い込んでたどり着いた古い洋館、そこで出会った緑色の髪をした少女。その面影を今もなお想い続ける大学生・嶋村。美しくも悲しげなノクターンの調べとともに、思いもよらぬ結末へと導かれてゆく。



『たまさか人形堂物語』

F ツ  
つはらやすみ  
 津原泰水著  
 文藝春秋

会社をクビになった澤は、今にもつぶれそうな人形店を継ぐことに。天才人形作家の青年や、一流の腕を持つ謎の人形職人とともに、人形にまつわる不思議な物語を解き明かしていく短編集。



『ペンギン・ハイウェイ』F モ  
もりみとみひこ  
 森見登美彦著 角川書店

海のない街に突然現れたペンギンたち。ボクはこの事件の謎について研究することに決めたんだ…。小学4年生の男の子と不思議なお姉さんのおはなし。独特な森見ワールドをぜひお楽しみください。



『ふれられるよ今は、君のことを』  
はしもとつむぐ  
 F ハ 橋本紡著 文藝春秋

中学校教師の「わたし」と奇妙な同居人。彼は時々、何の前ぶれもなく消えて、ふっと戻ってくるのだ。人と親しく関わることを避けてきた彼女が、失うリスクを越えてもほしかったものは？ 何気ない会話で静かに流れる日常のもとで動く、心のゆらぎが心地よい作品。



『県庁おもてなし課』  
あいかわひろ  
 F ア 有川浩著 角川書店

とある県庁の“おもてなし課”で働くことになった若手職員の掛水史貴。使命は地域の魅力を発見し、観光客を呼び込むこと。“自治体で働くこと”や“観光業”に興味が出てきます。主人公ががむしゃらに頑張る姿と、舞台となった高知の風景がとても魅力的で、おすすめです。



『この本が、世界に存在することに』F カ  
かくたみつよ  
 角田光代著

メディアファクトリー

東京で一人暮らしを始める私は、古本屋に本を持ち込み店主に「あんたこれ売っちゃうの？」と念を押される。ところが、卒業旅行先の異国で再びこの本に巡り合うという不思議な体験をする。本にまつわるお話が9編。本との出会いに心が揺さぶられる1冊。



『ボトルネック (新潮文庫)』  
よねざわほのぶ  
 SF ヨ 米澤穂信著 新潮社

断崖から初冬の日本海へ転落したハズ。けれど目覚めたのは見慣れた金沢市内の公園で、家に戻ると見知らぬ姉がいた。ここはボクが生まれなかった「もうひとつの世界」なのか？ 何者でもないものとして生きること、周囲と折り合いをつけていたボクが、この世界で見つけたものとは…。



『そのころ、白旗アパートでは』F イ  
いとう  
 伊藤たかみ著 講談社

なぜか屋上に一本の白旗が掲げられた「白旗アパート」。そこに暮らす売れない小説家、医大浪人生そして留年大学生。彼らの楽しく、時に苦しい日々。誰しもに訪れる青春の中のなんだか宙ぶらりんな瞬間。彼らは、どう進んでいくのか。

